

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

大有 火天大有 乾下離上

互卦 澤天夬

綜卦 天火同人

錯卦 水地比

□卦辞(彖辞)

大有、元亨。

○大有は、元に亨る。

大有は乾(天)の上に離(火・太陽)が在り、天上に太陽が燦々と輝き普く天下を照らす。一陰の六五が君位に在り、五陽の賢人が帰服する。何事もすらすら通る(大有は、元に亨る)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

今の政治体制ではどうい実現不可能な時であるから、野田内閣が追い込まれて解散総選挙となり、それを契機に大幅な国会議員の入れ替えと本格的な政界再編が起こるものと考えられる。

総理大臣に就任するのは「政治家として大きな能力を持っていないが、自分の心を虚しくして大臣や官僚を信任できる人物」である。とくに九二の賢人を信任して、その言葉に従うので、偉大な功績を上げることができると考えられる。

□彖伝

彖曰、大有、柔得尊位、大中而上下應之、曰大有。其徳剛健而文明、應乎天而時行。是以元亨。

○彖に曰く、大有は、柔尊位を得、大中にして、上下之に應ずるを、大有と曰う。其の徳剛健にして文明、天に應じて時に行う。是を以て元に亨る。

彖伝は次のように言っている(彖に曰く)。

大有は、柔順な六五が尊位に在り、偉大な中庸の徳を得て、上下五陽が心服し応じているから、大いに所有する(大有)と言う(大有は、柔尊位を得、大中にして、上下之に應ずるを、大有と曰う)。六五は強く健やか(乾)で明智(離)を備えており、天に應じて時に中る(其の徳剛健にして文明、天に應じて時に行う)。それゆえ何事もすらすら通る(是を以て元に亨る)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

六五に該当する人格者は今の国会議員の中には見当たらないので、国政以外の政治家や政治家以外の人物が国政の表舞台に現れて総理大臣に就任することもあり得る。

敢えて今の国会議員の中から六五に該当する人格者を挙げるとすれば、あの硫黄島の指揮官栗林中将のお孫さんであられる新藤義孝衆議院議員(自民党)、ヒゲの隊長として知られる佐藤正久参議院議員(自民党)、保守系女性政治家として国会で孤軍奮闘しておられる稲田朋美衆議院議員(自民党)などの若手、ベテランでは総理大臣経験者の安倍晋三衆議院議員(自民党)が考えられる。いずれも正しい国家観を持っている保守系の政治家である。

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

卦辞(象辞)には「元に亨る」とあり、「貞に利し」という前提条件が書かれていないが、象伝には「柔尊位を得、大中にして、上下之に應ずるを、大有と曰う。其の徳剛健にして文明、天に應じて時に行う。是を以て元に亨る」と書いてあり、極めて難易度の高いハードルをクリアすることが前提条件となっている。そのことを高島嘉右衛門は「各々その宜しく有つべき所に従つて、よく有ち得れば終には大有の本位に至る」と表現している。具体的には各々次の前提条件を満たさなければならぬ。

- ① 天子は宜しく泰(ゆた)かに四海に通じて宗廟社稷を有つべし。
総理大臣は毅然とした態度で外交を行ない、内政を安定させなければならぬ。
- ② 華族は宜しく王室の藩(まがき)となつてその家を有つべし。
大臣は総理大臣をしっかりと補佐して内閣を安定させなければならぬ。
- ③ 文官は各々その職務を奉じて宜しくその家を保つべし。
官僚は国益に沿つた立場で職務を遂行して内閣を補佐しなければならない。
- ④ 武官は宜しくその身を以て国家に奉じて人々を守り職を尽くしてその位を有つべし。

自衛官は命をかけて国家と国民を守り職務を尽くして軍隊としての立場を確立しなければならぬ。(すなわち憲法九条を廃さなければならぬ)

- ⑤ 庶民に至つては各々その業を務めて出でては長上に事え入りては父兄に事え、孝悌忠信にしてその身を有つべし。

一般大衆はそれぞれの仕事を勤勉に務め、社会においては先輩を立てて、家の中においては父母に孝行を尽くし、日本人として恥ずかしくない人間にならなければならぬ。

以上の前提条件を満たすことは至難の業であろう。従つて、これまで通りの政治が続けば火天大有の時は実現しない。戦後の政治体制の枠組みを突破すべく、わたしたちがその価値観を大転換させて、具体的な行動を起こすことが前提条件になる。

□大象伝

象曰、火在天上大有。君子以遏惡揚善、順天休命。

○象に曰く、火、天上に在るは大有なり。君子以て惡を遏(とど)め善を揚げ、天の休命に順う。

大象伝は次のように言っている(象に曰く)。

太陽が天上に在つて燦々と輝き普く天下を照らすのが大有の卦象である(火、天上に在るは大有なり)。君子はこの卦象に倣つて、惡事を罰して惡を絶ち、善事を表彰して善を勧め、天の善美である天命に順うのである(君子以て惡を遏め善を揚げ、天の休命に順う)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

大有は「太陽が天上で燦々と輝き普く天下を照らす」時であるから、太陽である六五が発するエネルギーを五陽の臣民が有り難く頂き賜ふことが必須条件となる。

すなわち「惡事を罰して惡を絶ち」「善事を表彰して善を勧め」「天の善美である天命に順う」ことが必須条件となる。これもまた極めて難易度の高いハードルである。

① 惡事を罰して惡を絶つためには、まずは為政者が惡事を絶たねばならぬ。今の為政者は惡事を犯しても惡事を犯しているという自覚がない不道徳窮まりない輩であるが、このような為政者を一掃するためには、まずは総理大臣が率先して道徳的ではなくてはならない。その意味で誰が総理大臣に就任するかがポイントである。

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

② 善事を表彰して善を勧めるためには、徳治による政治を推し進めて、一般大衆が法律よりも道徳(モラル)を重視するような社会的な規範を醸成することが肝要である。そのためには為政者の道徳性(モラル重視)を高めなければならぬ。

③ 天の善美である天命に順うためには、日本の国柄に誇りを持ち、伝統文化を重んじる国民が多数を形成することが前提条件となる。そのような国民であつてこそ、自分の天命を自覚して、それに順うことができるのである。

象伝と同じく大象伝に書いてあることも、現在の日本においては実現することが大変困難な事項である。だが、遅かれ早かれ、これらの前提条件を実現しなければ、日本という国家は滅びるしかないのだ。国家の存亡をかけて、来年は飛躍の年になることを期待したい。

九四



之卦 山天大畜

九四。匪其彭。无咎。

○九四。其の彭(さか)なるに匪ず。咎無し。

九四は剛健で控え目(柔位、不足中)だから、大有盛大な時に中り六五の天子に寵遇され富貴威権を一身に集める。柔順な六五を凌ぐ勢いがありながら、常に謙讓して権勢を誇って驕り高ぶることもない。咎められるような過失は免れる(九四。其の彭なるに匪ず、咎無し)。

象曰、匪其彭、无咎、明辨哲也。

○象に曰く、其の彭なるに匪ず、咎無しとは、明辨哲(あきらか)なる也。

象伝は次のように言っている(象に曰く)。

九四が常に謙讓して権勢を誇って驕り高ぶることなく、咎を免れるのは(其の彭なるに匪ず、咎無しとは)、明智で幾を見て出処進退を判断するからである(明辨哲なる也)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

卦全体の読み方と六段階の読み方をどのように整合させるかが易占の難しいところ。大有の場合は、六段階を時の流れと捉えずに、立場や役割分担における留意点と捉えた方が理解しやすい。そこで、九四(総理大臣の側近)に誰が就任するのか、九四はどのような役割分担を担うべきなのか、という観点で考えることにする。

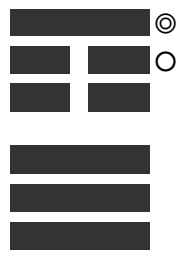
すなわち六五の総理大臣の側近が九四であり、九四に該当する人物こそが来年の日本の運勢の鍵を握る人物ということであろう。九四の爻辞によると「剛健の才徳を有するゆえ六五に寵遇され富貴威権を一身に集めるが、控えめで常に謙讓して権勢を誇って驕り高ぶることがない」とある。このような人物が今の日本にいるのかという疑問もあるが、同じく今の日本に六五が存在するかという根本的な疑問もあるので、この点については棚上げすることにしよう。

爻辞に書いてある条件を満たす人物が今の日本のどこかに存在しており、その人物を六五の立場にある人が抜擢することができるとかどうかがポイントである。小象伝には剛健ゆえ政治家としての才徳が六五より優る九四が常に謙讓して権勢を誇って驕り高ぶることがない理由として「明智で幾を見て出処進退を判断できるからである」と書いてある。すなわち九四に該当する人物は明智と将来予測能力と決断力を備えた賢人

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

であり、控えめで常に謙譲して驕り高ぶることがない君子でもある。すなわちこのよ
うな人格者が日本のどこかに存在しているということになる。
九四になり得る人格者を思い浮かべるとすれば、無私の青山繁晴さん、田母神元航空幕僚長、明治
神宮武道場「至誠館」館長の荒谷卓(たかし)さんなどであろう。いずれも私心がな
く公のために生命をも捨てる覚悟を持った人格者である。

之卦



山天大畜 乾下艮上

□卦辞(彖辞)

大畜、利貞。不家食吉。利涉大川。

○大畜は貞しきに利し。家食(かしょく)せず。吉。大川を渉るに利し。

大畜は天(下卦乾)が山(上卦艮)の中に在る。すなわち至って大きなものを止め貯
え養っている。人事で観れば、君子が大きな才徳を心の中に止め貯え養っている。正
道を固守するが宜しい(大畜は貞しきに利し)。自分の家に引き籠もらず、勇敢に社
会に出てお国のために尽くせば、天下の艱難を救済することができる(家食せず。吉)。
難事業に取り組んでも宜しい(大川を渉るに利し)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

之卦とは本卦で出た爻の陰陽が反転した場合、すなわち火天大有の九四が陰爻の六四
となった場合の卦をいう。すなわち火天大有の九四の時に中ることができない場合は
山天大畜の六四の時に変化すると考えるのである。この場合時全体の物語が変化した
と考えれば、「大有は元に亨る」という火天大有の時が「大畜は貞しきに利し。家食せ
ず。吉。大川を渉るに利し」という山天大畜の時に変化したことになる。

これから政界大再編に携わる君子は、大きな才能と道徳を心の中に蓄えて養っている。
正しい道を堅く守れば政界大再編は実現する。これを「大畜は貞しきに利し」という。
政界大再編に携わろうとする君子は、いかに状況が厳しくとも、周りの人々から無理
だ、無謀だ、と反対されても、自分の殻に引きこもらずに、勇敢に社会に出て行き、
お国のために尽くせば、政界大再編を実現して天下の艱難を救済することができる。
これを「家食せず。吉」という。艱難辛苦を乗り越えて思い切った政界大再編に取り
組むが宜しい。これを「大川を渉るに利し」という。

□彖伝

象曰、大畜、剛健篤實輝光、日新其徳。剛上而尚賢、健止能。大正也。不
家食吉、賢養也。利涉大川、應乎天也。

○象に曰く、大畜は剛健篤實にして、輝光(きこう)日々新たに新たなり。其の徳、
剛上りて賢を尚び、能く健を止(とど)む「能く健にして止(とど)まる」。大い
に正しき也。家食せず、吉とは、賢を養う也。大川を渉るに利しとは、天
に應ずる也。

象伝は次のように言っている(象伝)。

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

大畜は剛健(乾)にして篤実(艮)。天徳は光り輝き、日々新たに磨かれる(大畜は剛健篤實にして、輝光日々に新たなり)。六五の天子は上九の顧問を尊びその教えによく順い正道を施して不義を畜(とど)める(其の徳、剛上りて賢を尚び、能く健を止む「能く健にして止まる」)。大いに正道に適っている(大いに正しき也)。自分の家に引き籠もらず、勇敢に社会に出てお国のために尽くせば、天下の艱難を救済することができ(賢を養う也)。難事業に取り組んでも宜しいのは(大川を渉るに利しとは)、天道に適っているからである(天に應ずる也)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

政界大再編に携わろうとする君子は、剛健(乾)にして篤実(艮)である。それゆえ天から授かった徳が光り輝いて、日々新たに磨かれるのである。これを「大畜は剛健篤實にして、輝光日々に新たなり」という。自分の心を虚しくして大臣や官僚を信任できる政界大再編後の総理大臣は、総理大臣経験者や大御所的存在の有識者を顧問として尊びその教えによく順い正道を施して不義を畜(とど)める。それゆえ、大いに正しい道に適っているのである。これを「其の徳、剛上りて賢を尚び、能く健を止む「能く健にして止まる」。大いに正しき也」という。

政界大再編に携わろうとする君子は、いかに状況が厳しくとも、周りの人々から無理だ、無謀だ、と反対されても、自分の殻に引きこもらずに、勇敢に社会に出て行き、お国のために尽くせば、政界大再編を実現して天下の艱難を救済することができるのは、政界大再編後に総理大臣に就任する君子が、大臣やブレイクとして自分を補佐してくれる賢人を貴びよく養った上で、抜擢して任用するからである。これを「家食せず吉とは、賢を養う也」という。艱難辛苦を乗り越えて思い切った政界大再編に取り組んでも宜しいのは、天道に適っているからである。これを「大川を渉るに利しとは、天に應ずる也」という。

□大象伝

象曰、天在山中大畜。君子以多識前言往行、以畜其徳。

○象に曰く、天、山の中に在るは大畜なり。君子以て多く前言往行(せんげんおうこう)を識(しる)して、以て其の徳を畜(たくわ)う。

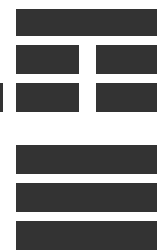
天(乾)の元気が山(艮)の中に在るのが大畜の卦象である(天、山の中に在るは大畜なり)。君子はこの卦象に倣って、古の賢者の言行を体得して、見識を胆識に高め(う)べく、日々人徳を磨くのである(君子以て多く前言往行を識して、以て其の徳を畜う)。

日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

政界大再編後の総理大臣を支える人々のエネルギーがギユツと詰まっているのが大畜の形である。これを「天、山の中に在るは大畜なり」という。総理大臣及び各大臣並びに官僚は、このエネルギーがギユツと詰まっている形を見習って、神道・仏教・儒教という日本の古典に記されている昔の賢者の言行を体得して、知識を見識に高め、見識を胆識にまで昇華すべく、日々の生活習慣を徹底して実行するのである。これを「君子以て多く前言往行を識して、以て其の徳を畜う」という。

平成23年の冬至占の解説／平成24年の「日本の運勢」を読み解く(概要版)

六四



之卦 火天大有

六四。童牛之牝。元吉。

○六四。童牛の牝(メ)なり。元吉。

六四は柔順正位の大畜の大臣。大畜の時に中り、幼牛の角に横木を付けて人を害するのを防ぐように、正応初九の妄進を畜止する(六四。童牛の牝なり)。微力な段階で悪を畜止すれば民は悪から遠ざかって善に遷り、人徳を磨いて風俗が善くなる(元吉)。

象曰、六四元吉、有喜也。

○象に曰く、六四元吉とは、喜び有る也。

象伝は次のように言っている(象に曰く)。

微力な段階で悪を畜止すれば民は悪から遠ざかって善に遷り、人徳を磨いて風俗が善くなることは(六四元吉とは)、治国の理想的な在り方であり、天下萬民上下君臣皆喜ぶのである(喜び有る也)。

以上を来年の日本の運勢に当て嵌めると、次のようになる。

火天大有の九四の爻辞は「剛健の才徳を有するゆえ六五に寵遇され富貴威権を一身に集めるが、控えめで常に謙讓して権勢を誇って驕り高ぶることがない」とある。すなわち六五の総理大臣の側近が九四であり、九四に該当する人物こそが来年の日本の運勢の鍵を握る人物ということであるが、之卦である山天大畜の六四の爻辞は「六四は柔順正位の大畜の大臣。大畜の時に中り、幼牛の角に横木を付けて人を害するのを防ぐように、正応初九の妄進を畜止する」とある。すなわち火天大有の九四と山天大畜の六四とは、その役割を全く異にする。つまり大有の九四は如何に謙遜して六五の天子に仕えるか使命であるが、大畜の六四は正応である初九の妄進を畜止して六五の天子を補佐することを使命としている。

そこでこれを現代の日本に当て嵌めた場合、初九に該当する人物が誰であるかを見極める事がポイントとなる。六四に該当する人物が誰であるかを見極めるのが重要な事は言うまでもないが、六四に該当する社会的地位は総理大臣側近、すなわち官房長官あるいは幹事長、はたまた側近的なブレーンということなので、総理大臣が決まれば推測する事は難しい事ではない。しかし初九に該当する人物は、社会的地位で見ると裾野が広くて焦点を当てる事は難しい。敢えて言えば知勇備えた賢人や君子でいながら社会的地位が低い者、たとえば他の分野から政界に転身した新人政治家などが該当するであろう。いずれにしても現段階でその人物を推測する事は困難であるから、六五の総理大臣と六四の側近が判明した段階で探ってみるしかないであろう。初九が誰であれ、六四の役割としては初九の妄進を畜止して六五を守り守ることであり、これを「六四。童牛の牝なり」という。六四の役割を実現するためには、初九が誰かを早い段階で見極めて、妄進する前に初九の心を掴み善に導くことが必要である。それに成功すれば初九の人徳は高まって全体に好影響を及ぼすことになる。これを「元吉」という。

六四が早い段階で初九を見極め、善に導いて、猛進することを畜止して、六五の天子を守る事ができれば、社会全体が調和して天下太平となり、天下萬民上下君臣全ての人々が喜びに満ち溢れるのである。これを「六四元吉とは、喜び有る也」という。